

第15回 「はーと&はーと」 絵本原作コンクール入選者

優秀賞	「さきちゃんのめがね」 宮城県仙台市	あべのぞみさん
佳作	「僕の自慢のお母さん」 東京都墨田区 「ぼくたち、ヘンなんです。」 大阪府東大阪市	さだきよ きょうこさん 瑞田 若葉さん
奨励賞	「鉄ちゃんとゼリー」 大阪府大阪市 「こんにちわんこ」 東京都足立区 「水たまりの中に」 滋賀県長浜市 「もういいよ」 東京都世田谷区 「ぼくのともだち」 大阪府柏原市	たなか とうせいさん 高見 ゆかりさん かわしまりこさん ゆさ ふじこさん 狩股 千穂さん



＜優秀賞＞「さきちゃんのめがね」

めがねをかけたおとなしいさきちゃん。二年一組でめがねをかけているのは、さきちゃんだけ。そのせいか、「やーい、めがね、めがね!」とからかわれることもあります。そんなさきちゃんのクラスの、かえりの会では、くらしのなかでみつけたおもしろいこと、びっくりしたことを発表する「みつけたよ会」が毎日ひらかれており、クラスのいろんなお友だちたちが様々に発言した、おもしろい発表が繰り返されていきます。そして、ついに、さきちゃんの発表の番が回ってきます。さきちゃんは、めがねをとおして、いったいどんな発言をしているのでしょうか…。

どんな子どもにも、人とは違う、ステキなところがある。そのことを誰かに見つけてもらった時の嬉しさや誇らしさ、そんな光が生まれた瞬間がお話になりました。

＜佳作＞ ●交通事故による全身麻痺のお母さんを通じて、家族愛や優しさ、勇気を扱った「僕の自慢のお母さん」。
●動物たちを通じて、他の人と違うことへのコンプレックスを扱った「ぼくたち、ヘンなんです」。

＜奨励賞＞ ●幼稚園で起こった事件の原因を友だちのせいにした子どもの心情と友情を描いた「鉄ちゃんとゼリー」。
●動物たちが話だすことにより認知症への理解を描くファンタジー「こんにちわんこ」。
●「自分さえ良ければ…」という気持ちから、「弱い立場の者をないがしろにすること」を虫たちの世界で滑稽に描いた「水たまりの中に」。
●聴覚障がいのある子どもとの遊びを通じた障がいへの気付きを描いた「もういいよ」。
●児童養護施設の子どものとの交流を通じて偏見や友情を描いた「ぼくのともだち」。

このたびは、第15回「はーと&はーと」絵本原作コンクールに、全国より多数の作品をお寄せいただき、まことにありがとうございました。

第15回を迎えた今年は、全国各地から168編の応募がありました。

応募作品は、絵本作家、教育関係者、学識経験者などで構成する有識者会議における意見をふまえ、厳正に審査された結果、優秀賞1作品、佳作2作品、奨励賞5作品がそれぞれ選出されました。今後は、優秀賞作品をもとに「はーと&はーと」絵本の制作をすすめ、

大阪市内の学校園をはじめ図書館など社会教育施設に完成絵本を配布するほか、入選作品を当ホームページ上で発表します。そして、この「はーと&はーと」絵本を通じて、人権をテーマに、子どもと大人が一緒に読み、考え、話しあうきっかけづくりをすすめていきます。

なお、平成25年夏に、「はーと&はーと」絵本原画展の開催とあわせて、希望する市民の皆さんに絵本の配布を予定しています。どうぞお楽しみに。
(教育委員会事務局生涯学習担当)



おおさか歴史探訪 ⑥7 青湾碑 一桜宮は名水の地一

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

「青湾碑」をご存知でしょうか？都島区の毛馬桜宮公園のなかにある石碑です。高さ2メートルもある大きなものです。「青湾」とは大川が寝屋川と合流する手前の桜宮の堤の下に、川の蛇行によってできたよみ(湾)のことで、その水が清淡で甘美であったことから、そのように呼ばれるようになったとのことです。江戸時代末期から明治時代にかけての著名な文人画家である田能村直入はこの地に「青湾茶寮」と名付けた寓居を構え、日々同好の人たちと煎茶を楽しんでいました。そして文久2年(1862)に、由緒ある「青湾の地」を顕彰するため、この碑を建てたのです。碑には表に「青湾」と大書されていますが、この文字は播磨国山崎藩主の本多松嶽が揮毫したもので、裏面には、この水が豊臣秀吉から始まって、上田秋成、木村葦菴堂などいかに多くの文人に親しまれたかといったことが書かれています。

この石碑の完成を祝って同年の4月23日に、「茗藎」と呼ばれる大がかりな煎茶会が催されました。この時の茶会の内容は、明治以降に盛んになる煎茶の規範となったものであり、広く煎茶がたしなまれるようになるきっかけとなった、まさに記念碑といえるものでした。(大阪市教育委員会 文化財保護担当)



青湾碑